

脱原発政策実現全国ネットワーク NEWS

NO 127

2024. 12. 17

脱原発政策実現全国ネットワーク事務局
〒573-0028 大阪府枚方市川原町1-5 ストップ・ザ・もんじゅ気付
Email: stopthemonju@nifty.com
TEL&FAX 072-843-1904
郵便振替 00940-6-141492

12.5 院内集会

第2部 ヒヤリング集会



山田清彦（青森） 永田文夫（岩手） 大石光伸（東海）



原子力規制庁の皆さん

第3部 政党議員との懇談会



巽孝太郎（共） 上村英明（れ） 大椿ゆうこ（社） 福島みずほ（社） 佐原若子（れ） 近藤昭一（立） 山崎誠（立）

秋の取り組み報告とお礼

池島

1. 新作冊子「再処理工場の核惨事」完成！

一年前の脱原全国会議で提案し、プロジェクトチームを発足してから、計5回の会合で練り上げた苦勞の冊子が、ようやく完成しました。

遠距離恋愛ならぬ遠距離メンバーでのやりとりは、メールの時代とはいえ、やはり直接の討論が非常に重要でした。当初の予想以上に厚みのある中味となり、事務局は、財政面では、大きな借金をかかえて大変ですが、編集を担った斉田さんのご苦勞と、執筆者の皆さんのお陰で、何とか結実したことを喜ぶたいと思えます。

表紙の写真、カワセミ君は、青森の山田さんの撮影で、サブタイトルともマッチして、私はとても気に入っています。少しむづかしい所もありますが、

再処理工場が重大事故になれば、どうなるのか、伝わるのではなんでしょうか。ぜひ、ご注文下さい。そして広めて下さるようお願いします。



2. 11.16 「原発・核燃からの撤退を！」関西集会

多くの皆さんに賛同頂き、今年も無事に秋の関西集会を実施できました。あいにく他の集会と重なり、例年より参加者は少なかったのですが、午前のフレ企画から、熱心な方々の参加で、三人の避難者の訴えをもとに、会場討論も充実。心配した財政も何とか黒字でホッとします。ありがとうございました。又、参加者の下澤さんより、すばらしい感想を頂き、主催者としては感激しています。いつも「盛り沢山すぎる」と批判されながら、今回も、青森の浅石さんの講演録「再処理と丸条」を入れて、本当に良かったと思っています。

3. 12.5 「原発・核燃の中止を求める」院内集会

今回は、準備期間が大変短かく、皆さんにニュースやチラシでお知らせすることが出来ず、申し訳ありませんでした。急拠、関東の方には、電話とFAXを入れ、50名程参加して下さいました。ヒアリングのテーマも、冊子を中心に、「再処理の重大事故と、避難計画、フォルトニウム利用」の3点とし、執筆者がパネラーと下って、鋭く追及されました。宿題も2点あり、あわせて次号のニュースで報告いたします。少子部の、政党議員との懇談会には、多忙な中、野党の4党から、沢山の議員さんがかけつけて下さいました。表紙の写真に載せられませんでした。立憲の福山さん、打越さん、秘書の方々も多く参加下さいました。

今後の取り組みで、二つの大きなことが決まりました。

次回の院内集会は6月に、大規模全国集会をめざすこと。もう一つは、山崎誠議員よりの提案で、1月に東海再処理施設の見学・視察を行うことです。



11. 16原発・核燃からの撤退を！関西集会」に参加して

下澤陽子

もともと原子力は核兵器の製造と使用を目的に開発が始まった。再処理工場は原爆の材料製造工場だ。「原子力の平和利用」などというまやかしの美しい言葉のウソを、集会で流された「六ヶ所再処理と憲法9条」（浅石紘爾さん）の講演動画は、そのことを一つ一つ丁寧にわかりやすく、暴き立てていきました。

先日行われた『原発・核燃からの撤退を！ 南海トラフ巨大地震が来る前に 2024 関西集会』この集会は、私がいつも脱原発の集会で感じる「モヤモヤ」が一切感じられない、まっすぐに本質へと向かう素晴らしい集会だったと思います。とても貴重な経験でしたので、ここにシェアします。

さて、これは、兵器なんだ。人を殺すための兵器、それを作るために作られたのが原発、それを回していくための核燃料サイクル。で、その兵器製造の過程で生み出される死の灰をばらまかれて、起きている事は？ ぐったりと横たわっていた我が子。奪われた途方もない数の人たちの健康と、当たり前前の日常。いや、そんなものは今、何もないことになっている、事故は終了して、忘却へ。

そんなバカな？ で、だって当たり前。「兵器」だもの。人の命を奪うために生み出されたものだもの。私たちからどれだけのものが奪われようと、関係ない、むしろそれが目的。そんなものはないことにすればよいだけ。兵器の力はすさまじい。そうして、多くの人たちの目に、目隠しをし、口を塞ぎ、心を分断してきた。

〈原発、核燃料サイクル〉

そんなものの正体が、この集会で見事にクリアに見えました。

賛成？ 反対？

さて、この議論は成り立つの？ 多くの人が、現在の日本の土壌の放射能汚染の度合いさえ知らないなかで。多くの人が、原発は全エネルギーの

30%は、担っている、と認識している(本当は5%以下)なかで。

アピールをされた福島からの若い避難者、鴨下全生さん、の話はそんなふうに始まりました。

午前中に行われたプレ企画「子どもたちにヒバクのない未来を」での内容を、大集会での話も織り込みながら、そして私の思いも少しだけ混ぜながら、紹介させてください。

ここでは、3人の避難者が話をされました。ひとりは、郡山市から母子避難を続ける森松明希子さん。(原発関西訴訟の原告)

もうひとりは、8歳の時に、いわき市から東京へ避難された鴨下全生さん。(原発東京訴訟の原告)そして、もうひとりは、東京で開業医をしていて、首都圏4000人の検査診察を続けていく中で危機感を持ち、岡山へ避難移住をされた三田茂医師。

どなたも、このおかしな理不尽な世の中で、堂々と、声を上げる避難者です。私たちが、人を殺す兵器の下に生きることを止めるために、身体を張って訴えてくださる方々、私はこの集會にて、そのように、とらえました。



森松明希子さんの話より

…水やオレンジジュースぶっかけられたって、人は怒る、文句を言える、賠償を要求したりもする。放射能を無差別にぶっかけられたら、見えなからセーフ？ そこに対してはこの十数年間、シーン…として、声は出さない。そして、なかったことにして原発再稼働。なぜ放射能をぶっかけられて、私たちは文句を言えないのか？ 私たちは、この問いを共有したい。鼻血がヒステリック？

子どもの体調異変。なぜ？って親なら思う。それが放射能のため、と疑えば、その原因から遠ざかろうとするのは当たり前前の行動。放射能が降り注いだら、なぜ“逃げたらいけない”と言われなくてはいけないのか。

放射能汚染の線引きは国がしている。しかし事

実として、汚染は、東日本ほぼ全域に、深刻にある。(前述の、鴨下さんが見せた汚染の日本地図にあるように) そこで、子どもが体調をおかしくした。だから逃げた。これを自主避難、と呼ぶ。これが許されない社会。

〈被ばくからの自由〉

私たちはこの基本的人権を守る、手放さないために闘っている。言論の自由、職業選択の自由、他のさまざまな権利と同じように、私たちが持っている権利。私たち原発賠償訴訟の全国の原告の人たち、声を上げる全てのヒバクシャ、核燃料や核エネルギーに反対する人々、すべてに通用する権利。その私たちの権利のための情報は、私たちが手にしなければならぬ。この権利の確立をベースに置いて、様々な活動を一緒にしていきましょう。

鴨下全生さんの話より

『広く東日本に降り注いだ放射性物質は、今もなお放射線を放っています。汚染された大地や森が、元通りになるには、僕の寿命の、何倍もの歳月が必要です。だから、そこで生きていく僕たちに、大人たちは、汚染も被曝も、これから起きる可能性のある被害も、隠さず伝える責任があると思います。嘘をついたまま、先に死なないでほしいのです』

以上は、読み上げられたのは、鴨下さんが17歳の時、ローマ教皇に伝えた言葉の一部です。

汚染や被ばくのことを口にするのは、残酷だ、傷つく人がいるからやめろと、差別につながるからやめろと言う人がいる。でも本当に残酷なのは、それを口にするのではなく、起きてしまった事実そのものが残酷なのです。目を閉じて口を塞いでいても、汚染は消えません。事実を隠して、なかったことにして、防災は解決しません。僕は当事者だからこそ復興とか、絆、とか言う美学で覆い隠すことなく、これからも被害の発信を続けていきたいと思っています。



三田茂医師の話

いつも健康被害から逃げ出した首都圏避難者が中心の、コアな学習会のような形の集会で、幾度

も映し出されるのを見てきた三田医院の建物の写真が、大集会の会場の大きなスクリーンに映し出されるのを見て、私はなんとなく胸が詰まった。私はどれだけこの先生の病院の診察室で聞いてきたことを、この場で伝えたいと願ったことだろう。今日は本人が話してくださる。

今回の三田茂医師のお話のテーマは、午前も午後も『定説にとらわれない』ということ。でないとまともなことが、見えなくなる。

始まりに映し出される東京の地図。地形と3/15、3/21、ブルームの流れ。部屋の奥のレントゲンフィルムにはっきりと写る放射性微粒子の存在。

3.11当初の、たくさんの患者さんの症例が話されます。口の中に感じる金属の味と匂い 大量の鼻血(救急車に乗る位) 原因不明のあざ 主に中高年の人の喘息などの持病の悪化 リンパのおかしな腫れ、転地するごとの、それらの劇的な改善例。

そして配られた資料は、何千という症例をまとめ、例として挙げられた、311ヒバクをきっかけに健康を損なった一例。

その一例は、転地で元気を取り戻し、戻るとダメになる、白血球、好中球がひどく減少する子ども。診察室で、なぜか激しく怒られるお母さん、の姿があり、ああ、私たち親子のことが言われている、と私は感じてしまった。

この原発についての大きな集会の場で、私や私の娘や、つながる沢山の方々に「こんなことが起きたんだ」ということが、初めてしっかりと共有されたような、ほっとするような気持ちになった。話されたのは「定説」ではなく、起きてきた「事実」です。

臨床医である先生が見てきたもの、観察してきたもの。ヒバクの「定説」ひとつに免疫の低下。先生が自分の目で見たこと。それは、免疫の低下でなく、逆。暴走(アレルギー)アナフィラキシーショック、膠原病、喘息。

先生が見てきたこと。それはぶらぶら病のような症状、それに私たちは人を苦しめられているのではないか?それは、事故後から増え、2016年、事故から5年後、非常に目立つようになる。自分

はその症状を診断名として「能力減退症」という名前を付けた。自分が診てきたのは、首都圏の人たち。「新ヒバクシャ」とカテゴライズ。それは、東海村や、原爆、高線量の被ばくとは違う。低線量内部被ばく。つながるのは…ヒロシマ・ナガサキ入市被ばく、二世三世。チェルノブイリの低線量汚染地帯。

能力減退症の症状とは？ 疲れやすい 集中力、判断力の低下 眠気がひどい 病気が治りにくい。

スクリーンに映し出されたのは、車の事故現場、電車・バスなど運転手のミス、居眠り、おかしな事故の多発。急病人が多く、地下鉄に対処法の張り紙まで貼られる異常。

ウクライナ、一番問題となったことは？ 不正、汚職、犯罪、蔓延る麻薬。これを知り、自分は原発事故後、日本、東京のこれからを恐れた。今、それはおきているのでは？ 政治の乱れ。人口が減る。国力が落ちる。

ヒバクの「定説」 DNA。放射線はDNAを切断する。細胞が死ぬ。ガンとなる。ヒバクの定説、それは、細胞分裂の激しい子供が放射線の影響を強く受ける。が…実際診ていて、子どもよりずっと年配者の方の被害が大きかった。そして、ガンではなかった。

「定説」それは否定しない。しかし、それでは起きていることは説明できない。身体は複雑なネットワークで成り立つ。身体を一定に保とうとするホメオスタシス(ホルモン、自律神経、免疫)が壊される→能力減退症。それは、=原爆ぶらぶら病。被爆者の、そして新ヒバクシャの、多くの人にとり、最も問題となってきたのがそれ。治療法はない。当時はそうだった。でも今は違う。ホルモン補充による治療効果は非常に高い。(それについて三田医師には実績がある)

ヒバクの「定説」、血液は？ それはリンパ球が減る。しかし三田医師の観察では違う。白血球のなかでは好中球が減った。そして異形リンパ球の出現。当初、汚染の強い下町の子どもを中心に、その後、弱い多摩地域にも、非常な高率で現れた。それが被ばくで現れるのは、物理学の放射線防御の世界では、常識。福島作業員にも頻発したが、

普通の医者には知らない、知ろうともしない。医者の「定説」には、ない。だから、そんなことは起こらない。

ヒバクの「定説」、被ばく線量。どれくらい浴びたか、で。その影響は決まる。しかし三田医師の観察では、個体差、感受性。それがずっと大きい。

ヒバクの「定説」、事故後の放射線は福島の問題である。？ 311当初、西日本岡山にもプルームが来ている。(4月6日、18日)様々な資料に線量変化がある。このために岡山県民にも今被ばく症状が広がって来ている。僕はそう見ている。ノルウェーの期間が出しているデータ。偏西風に乗って、福島第一原発の爆発による放射能は北半球全体を汚染していることがわかる。福島だけの問題ではない。東京、日本全体、北半球全体。人類の問題。

しかし…自分の実感。ICRP、IAEA、WHO、国連科学委員会、放影研。これら権威の作った枠組み「定説」に皆がとらわれている。誘導、が行われている。

以下は、三田先生からのメッセージです。

僕たちは『新ヒバクシャ』 まちがえなく、とても大きなダメージを負わされてしまった。昔はぶらぶら病と言われて成す術が無かったが、今は治療もある程度はできるので、無理せず楽しく過ごしていこう。考えたくもないかもしれないけれど、15~20年後から始まるかもしれない晩期性障害にもしっかり対応しようね。

原発賛成も反対も、推進派も、みんな誰もが当事者です、ね。私たちは、核兵器の下に、奪われながら生きること、そして生きることさえ奪われることをやめたい、です。誰も幸せにならない。待っているのは滅亡。この日、この場で、ずっと原発に反対してきてくださった方々に、この事実が伝わったことを願っています。そして、広く、日本、地球に生きるすべての人たちに、伝わりますように。



要 望 書

2024年12月5日

内閣総理大臣
石破茂 様

脱原発政策実現ネットワーク

核燃料サイクル政策を中止して下さい

① 六ヶ所再処理工場の建設及び操業を中止して下さい

南海トラフの巨大地震と共に、2021年12月内閣府は、日本海溝、千島海溝の巨大地震を想定発表し、その中で、六ヶ所村は震度6強と予想しています。震度6強は阪神淡路大震災クラスであり、ガルにして820~1500ガルとなり、大変に強い地震、津波となります。1300kmもの長大な配管は、ズタズタに破断され、中からプルトニウムや硝酸溶液等が噴出するでしょう。

・3000トンもの使用済燃料は、プールのひび割れによって、冷却水が流出し、果たして燃料管がどうなるのか実験されていません。

・245 m³の高レベル廃液の貯槽タンクは、厚さわずか2.2 cmと大変薄く、巨大地震の衝撃に耐えられるのか、実証されていません。

・重要な機器類や、送電線の損傷、火災など、同時多発の重大事故が予想され、高濃度の放射能漏れのため、事故の収束は無理な状態に陥ることと思います。

・これ以上多額の費用を浪費して、この超危険で無駄なプロジェクトを続ける意味は皆無です。即刻中止して下さいよう強く要望いたします。

・あわせて、日米高速炉開発研究協力も、全く実用化の展望もなく、無意味です。中止して下さい。

② すでにある高レベル廃液の安定固化を急いで下さい。

六ヶ所村に245 m³、東海村に340 m³ある高レベル廃液は地球上の最も恐ろしい物体です。そばに立てば人間は即死します。長年、ガラス固化に失敗し続けていますが、現行のガラス固化のみにこだわらず、大事故を防ぐため、もっと多様な方法を追求し、安定化を急いで下さい。

③ 規制委員会は、日本原燃に高レベル廃液の蒸発乾固後の爆発等の評価を求め、再審査して公開して下さい。これをせずに稼働を認めることは、この国の破滅を招き、大惨事となります。原子力規制委員会の根本が問われる大問題と考えます。

④ 規制委員会は再処理工場の事故を非常に過小評価し、PAZ(予防的防護措置を準備する区域)を設ける必要を認めず、UPZのみで、範囲も5km圏内としている。住民の命と健康を考えて、早急に、抜本的な見直しをして頂きたい。

⑤ 日本の余剰プルトニウム保有について、全世界から懸念の声が上がっている中で、再処理工場が稼働すると更に年6.6トンものプルトニウムが増え続ける時代錯誤のプルトニウム利用政策を直ちに中止し、再処理を止めて頂きたい。



ふうに思ってしまいました。大変なことではあるんだけれども、ずっと被爆者の方たちは、差別とか体の痛みとかも、証言していてもなかなかそれが分かってもらえなかった。でも、福島の事故が起きたことによってこの放射能の被害というものが、本当に他人ごとではないです。私が住んでいる関東圏って結構危ないと思っているんですが、私の中で思ったのは、50年以上前にこんな大変な被爆をしながらも生き抜いて、生きる姿を見せてくださった被爆者の方たちがいる。しかも福島の原発は東京の電力です。私が起こした事故、みたいなのがありますから…。でも、私の知っている広島・長崎の被爆者の方たちは違ったんですよね。もう自分のことのように福島の人たちのことを心配していました。特に福島の子どもたちが避難先でいじめられているというニュースが流れたとき、ある被爆者の方が私に電話してきました。「とも子さん、私ねえ、あんなニュース見たら、いても立ってもおられんよ。子どもたちがね、放射能がうつるからっていじめられている。私はそのいじめている小学校に行って証言したい」とおっしゃいます。あと被爆二世の知人も、福島にボランティアが入らないという話を聞いて、「私らこんな年だけどモンペだけは持つとるけ、いつでも行けるようにして炊き出しくらいできるからね、ボランティア登録してくる」と。結果的に福島へのボランティア体制が整わなかったこともあって、その方たちは福島に行けませんでした。だから福島の方たちにこの話は伝わっていないんです。

ノーベル平和賞を受賞されたアレクシエーヴィチさんがおっしゃっていた「日本は抵抗の文化がない」それは本当にそうだと思うんです。でも、お母さんたちと出会ってお話を聞いていくと、この方たちも元々は訴訟なんかしたくなかった。福島の方たちって我慢強い方が多い、だから声をあげないような方たちが多いけれども、例えば地方に避難された方、自主避難という言い方も私はすごく残酷な言葉だと思います。国が認めてくれなかったからしょうがなく自力で避難された方たち、そういう方たちが、このままだとこのことがなかったことにされてしまう、それはやっぱりどう考えてもおかしいと、勇気をふりしぼって立ち上がっています。

原爆の被爆者の方たちも訴訟のとき、自分たちのために立ち上がってないんですよね。もう自分たち

の命のためだったらそんなことやらない方がいい、体のためにも。でもそれだったらこれから後に続く人たちや、すでに亡くなった人たちに対して申し訳ない。だから間違いは間違っているということをやんと言わなくちゃ、と。

福島の方たちも同じ思いだということが分かりました。その方たちの訴訟、今も全国で30か所以上行われていますが、それをもう10年以上も続けている。一時は地裁レベルで国の責任、東電の責任が認められていた。けれども2年前の6月17日の裁判で、最高裁が国の責任を否定してしまった。

「津波対策を講じていても事故を防げなかった可能性がある」、つまり地震・津波の大きさは予測できなかったから国に責任はないというこの一つの論理によりその後の裁判は進められているのです。

私が今みなさんをお願いしたいのは、ぜひ一か所でもいいから原発訴訟の裁判の傍聴に行ってください。まずは原告さんたちの生の声がどれだけ強いのか、心を打つか、それは本当に短い時間しか語れない中で大事な思いを伝えられています。それに対して国と東電側の代理人の方がおっしゃることが、どれほどひどいのか、これをぜひみなさんにも知っていただきたいと思っています。

(以上、当日のお話から一部省略してまとめました。)



齊藤 とも子
(さいとう ともこ)

俳優。1976年デビュー。

テレビ、映画、舞台などに出演。主な作品は「ゆうひが丘の総理大臣」「男たちの旅路・車輪の一步」「若い広場～マイブックコーナー」、映画「ひめゆりの塔」。1999年、井上ひさし作・舞台「父と暮せば」の出演で被爆者と出会い、原爆小頭症家族の「きのこ会」ともつながる。数年前から福島原発被災者とも縁を深める。著書『きのこ雲の下から、明日へ』。



INFORMATION



1/下旬・平日 東海再処理見学会
大々所へ続き、議員視察に同行。
今回は 関東の方中心に若干名
TEL. 072-843-1904

2/22 (土) 2:00 大阪クリスチャンセンター
樋口英明講演会
「原発は地震に耐えられる」
TEL. 090-1899-0475



2/1 (土) 2:00 脱原ネット関西福井
学習会 & 新年会
メセナひらかた特別会議室
TEL. 072-843-1904

3/9 (日) さおほら原発関西アクション
2:00 中の島公園女性像前
3:40 テ"モあり
TEL 090-7107-1252

★ 新作冊子 購入、拡散のお願い

2000冊作成し、すでに600冊発注し、参議院議員250名全員と、衆議院の予算委員会、原子力特別調査委員会に贈呈しました。
再処理止めるための大々所方にはしていきたいものです。
ぜひ各地での学習会に広めて下さい。地方議員への働きかけも、10冊以上割引あり。あわせて冊子制作費カンパもよろしく！

★ ろばくん通販のご注文を。

大企業より提供のお得品ばかりです。
始めての方も、ぜひ一度おためし下さい。



★ 会費の納入と、年末カンパを。

会員の高齢化で、残念ながらサブ会員が減少し、財政がピンチです。来年も全力をあげてがんばりますので、年末カンパのご協力もぜひよろしくお願ひします。

脱原全国ネット会計報告 (10.11~12.12)

収入	
繰越金	174,608円
年会費	64,000円
カンパ	46,000円
計	284,608円

支出	
印刷費	22,720円
家賃分担金(10,11月分)	60,000円
郵送費	26,030円
12.5 交通費補助	39,000円
雑費	3,800円
計	151,550円

繰越金 133,058円

脱原全国ネットに会費又はカンパを下された方
止めよう原発！！関西ネットワーク 増田京子 使い捨て時代
を考える会 藤川博正 藤川布子 佐竹美智子 麻生由一
寺尾光身 宮里重雄 田平康子 須永和子 向井京子 杉林聡
美 永嶋里枝 嶋田基昭 遠藤浩二 笠江暁子 牛丸教子
上田由紀 日本基督教団大阪教区核問題特別委員会 松下昌子
石地優 I女性会議・京都 岸上京子 鈴木貴明 小松晴子 栗
田淳子 匿名1人 (敬称略)

皆さまありがとうございました。ご覧のように会計がひっ迫して
います。引き続き、会費納入、カンパよろしくお願ひいたします。

脱原会計 池尻京子